

「日々努力を重ねたい」

帯広コア専門学校、48人入学



新入生を代表して決意を述べる横田さん

帯広コア専門学校（千葉直樹校長）の入学式が6日、帯広市民文化ホールで開かれた。新入生48人が新たな一歩を踏み出した。今年度は新型コロナウイルスの影響が一段落したことから、2019年以来5

年ぶりに在校生も式に参加した。高度情報システム科4人、情報ビジネス科13人、医療ビジネス科10人、介護福祉科9人、歯科衛生士科10人、専攻科2人が入学する。千葉校長が「本学では専

門職として必要な知識と経験を身に付けることに加え、変化していく社会に適応する実践的なスキルを身に付けることを目指している。今日から始まる新生活にワクワクドキドキを感じながら学園生活を楽しんでください」と式辞。在校生を代表して藤原千菜さん（医療ビジネス科2年）が「学校生活で困ったことや不安なことがあれば、遠慮

なく先輩や先生方に相談して」と歓迎した。新入生を代表して横田和奏さん（医療ビジネス科）が、自身のけがをきっかけに医療事務職を目指すようになったと言い、「将来、誰かの支えとなれるよう専門的な知識を学び、地域の方の信頼を得られるよう日々努力を重ねたい」と決意を述べた。

（細谷敦生）

「十勝学」で郷土愛育む

帯広コア専門学校 初回は満寿屋「地産地消」



パン作りを体験した学生たち

帯広コア専門学校（千歳市）の直樹校長が、今年度から、十勝管内のさまざまな業種のプロフェッショナルから話を聴く「十勝学」の授業が行われている。初回は、

帯広コア専門学校の直樹校長が、今年度から、十勝管内のさまざまな業種のプロフェッショナルから話を聴く「十勝学」の授業が行われている。初回は、

による講話で、生徒たちはパン作りを体験。チョコクリームクリームが入った生地に思い思いの形を整え、と、学校近くにある同社のパン店「まき」に運び、杉山社長が講話している間に発酵と焼き上げを行った。講話では、パン作りや地産地消に対する思いを語った。一番のお得意さまは生

産者であるとし、「地産地消は農産物の価値を高め、地元の意味が十勝を発展させる」と話した。杉山社長の夢である「十勝をパン王国にする」といふことを伝えるために日々行っていることを伝え、「十勝は夢を逃げる場所。諦めず、今に集中してほしい」と訴えた。講話が終わった

タイミングで焼き上がったパンが焼き、学生たちには笑顔が広がっていた。帯広コア専門学校の赤間勇樹さん（22）は「未来の構

想を絵に描いているのが印象的だった。夢を一度見えた形にすることが大切だと感じた」と話していた。（細谷敦生）



歯科衛生士の仕事などを体験する子どもたち

口腔（くわくう）（内や歯への関心を高めてもらう「お口の健康フェア」むし歯予防デー」が1日、帯広市内のとかちプラザで開かれた。新型コロナウイルス「5類」移行に伴い、5年ぶりにイベント形式で開催した。市民らは口腔内の機能測定や相談、歯磨き指導などを通じ、健康な口の働きを保つ大切さなどを学んでいた。十勝歯科医師会などの主

口の健康守ろう

歯科医師会など5年ぶりフェア

催、北海道歯科衛生士会十勝支部など共催。4～10日の「歯と口の健康週間」に合わせた恒例の催し。会場には、「パ」「タ」「カ」の発音で唇や舌の機能を確認する「パタカラ」測定など、計八つの測定・相談コーナーを設置。お年寄りらが歯科医からのアドバイスに耳を傾けた。帯広コア専門学校歯科衛生士科の学生は、歯科衛生士

の仕事などを子どもたちに優しく解説した。家族4人で訪れた帯広市の渡邊和輝さん（34）は「普段できない口に関する測定や、子どもの歯磨きについての知識を学ぶことができた」と話していた。（松岡秀宣）

ゴシップ

○：帯広コア専門学校 走る気持ち良さ、楽しさを表現した。
(千葉直樹校長)の学生が今年のマラソンは10月27日に開かれ
考案した「2024フイード
る」。

行委員会など主催)のポスターが完成した。「自然のエネルギーが、気持ちいい!!」のうたい文句を前面に出し、十勝の爽やかな気候の中を

○：制作には、情報系学科で学ぶ学生約30人が参加。キャッチフレーズを考案した早坂悠空(ゆうく)さん(18)「情報ビジネス科1年、写真左」は「十勝といたら自然が豊か。自分も走るのが好きで自然のパワーをもらえる」と笑顔で話す。

○：デザインした平山凜さん(19)「高度情報ビジネス科2年、同右」は「十勝晴れの空の青と、十勝の農作物のイメージで緑を使った。自然と食を楽しんで走ってもらえれば」と呼び掛ける。エントリーは9月9日まで。大会ホームページを見て応募をー。
(高井翔太)



介護や医療、将来の選択肢に 帯広コア専門学校 中学生向け体験授業

車いすを体験する中学生の参加者



帯広コア専門学校（千葉直樹校長）で4日、中学生向けのオープンキャンパスが開かれ、参加者は体験授業を通して、介護や医療の仕事の特色、同校で学ぶ内容などに理解を深めた。中学生のうちから、同校に触れ、進路の選択肢の一つにしてみらおうと企画。帯広市内や近隣町村の中学生11人が参加した。

中学生来校に合わせて、同校4科では体験授業を展開。医療ビジネス科の調剤補助業務体験では、薬に見立てた駄菓子や、用意した処方箋に沿ってそろえた。また、小さな容器にクリームを詰める作業も体験した。

（細谷敦生）

2024年8月13日

十勝毎日新聞社 【15面】

臨床実習へ士気高く

帯広コア専門 2年生14人登院式 歯科衛生士科



帯広コア専門学校（千葉直樹校長）歯科衛生士科の登院式が4日、同校で行われた。2年生14人が、臨床

実習に向け士気を高めた。2年生は9日から12月19日まで、十勝管内の歯科医院などを1人3施設回り、

登院式に臨んだ2年生
と関係者

実習に励む。

千葉校長は、「積極的に学ぶ姿勢を持って、しっかりと実習に励んでほしい」と激励。十勝歯科医師会の大滝達哉会長、帯広市市民福祉部の石田智之ことも健康担当参事が来賓としてあいさつした。

学生たちは壇上で実習の目標を述べ、「希望」の花言葉を持つガーベラとネームプレートを千葉校長から受け取った。関係者ら42人に見守られながら、代表して小山奏心（かなみ）さんが「先生方や両親、支えてくれた人に感謝し、実習に励みたい」と決意の言葉を述べた。（馬淵智子通信員）

2024年9月6日

十勝毎日新聞社

【20面】

ケア7原則で怖くない

14日帯広コア専 認知症理解へ講演

認知症ケアに関する講演会「シン認知症ケア7原則 一瞬一瞬が幸せなら、それでいいよ」が14日午後1時半から同4時半まで、帯広市内の帯広コア専門学校（西11南41）で開催される。呼び掛け人の後藤じゅん子さんと帯広市には参加者を募集している。



認知症ケアの実践経験から提唱するケアの7原則を中

心に講演する。後藤さんは、夫が前頭葉側頭葉型認知症と診断されたことをきっかけに、認知症ケアについて多くの人に知ってもらいたいと企画。「分からないことが認知症への恐怖につながっており、正しい知識を持つていたらとの後悔があった。関係者にも広く知ってもらいたい」と話す。

会場となる帯広コア専門学校では、道の助成事業「介護のしごと魅力アップ推進」

事業の一環として会場を貸し出し、学生も講演会に

参加する。参加費は、早割り価格を据え置き1人2000円。学生は1人1000円。定員120人。介護セミナー事業の「くるんば」のホームページからQRコードから申し込み、メール (meetup@kurumba-h.com) やアクセス(0797・62・6874)で。(菊地青葉)



車いすに試乗する地域の小学生ら

車いす試乗や展示 学校祭にぎわう

帯広コア

帯広コア専門学校（千葉直樹理事長）の学校祭が7日、同校で開かれた。介護福祉科が福祉用具などを展示したほか、模擬店の出店や有志によるパフォーマンスが行われ、地域住民など多くの人でにぎわった。

27回目の開催で、今年のテーマは「HERE WE

GO」シン帯コア祭」。模擬店は学科学年ごとに出品し、ラスベリパイやじゃがバターなどを販売した。歯科衛生士科3年は、たこ焼きを販売し、約100個が午前中で完売する人気ぶりだった。

有志パフォーマンスでは、フルートの岩田夢菜さん、医療ビジネス科2年とサックスの丸山綾太さん、情報科2年が「残酷な天使のテーゼ」などを演奏。会場にはペンライトやうち

わを持って応援する観客が詰め掛け、盛り上がった。

介護福祉科1・2年は、日頃学んだ内容をまとめた模造紙や移乗サポートロボットなどを展示。車いす試乗体験も行い、地域の小学生らが試乗していた。体験した帯広啓西小2年の文澤恵麻さん（8）は「初めて乗った。ブレーキがちゃんと付いていることが分かった」と話した。同科2年の三口恵輝さん（20）は「いろいろな人と話せて楽しい。福祉用具の機能などについて聞かれ、勉強したことを伝えられた」と話した。

（菊地青葉）

選手介助を体験 「今後に生かす」

帯広コア専門学校

○…帯広コア専門学校の学生19人は選手介助のボランティアで活躍。原田望心(くるみ)さん(19)は「介護福祉科1年」は「選手と競技などについて話が



できて楽しかった。いろいろな障害を持った方と接した経験を今後に生かしたい」と話した。女子学生(19)は2年。も「障害者スポーツは自分自身との闘いと感じた。私自身が生きる上で学ぶものがある」と感動していた。

2024年10月2日

十勝毎日新聞社

【22面】

27日フードバレーマラソン

5463人帯広を力走

「フードバレーとかちマラソン2024」(実行委員会、帯広市主催)が27日、帯広市内で開かれる。ハーフマラソンや5キロなどの部門に道内外からエントリーした総勢5463人が秋の十勝路を疾走する。(大谷健人)

午前8時20分からオープニングセレモニーが行われ、3380人が出場するハーフの部は、午前8時半にスタート。平原通の日専速ビル前をスタートし、白樺通を西へ進んで、帯広の森運動公園や陸上自衛隊帯広駐屯地、緑ヶ丘公園などを通り、ゴールの中央公園を目指す。ハーフは日本陸連公認コース。

5キロは午前8時40分、2・5キロは中学生以上が同8時50分、小学生は同8時55分、親子ファミリーは同9時と車いす(0・5キロ)は同9時にスタートする。

各部門のゴール地点となる中央公園では「食フェスタ」として、25店のブースやキッチンカーが出店。十勝の味覚を味わうことができる。

ゴールの中央公園で「食フェスタ」



おそろいのTシャツ姿でボランティアやランナーとして参加する学生

帯広郵便所によると、27日の帯広の天気はくもり時々晴れで、最高気温は15度前後と平年並み。朝の最低気温は6度前後で、スタート時の気温は10度未満となる見込

投票所区域で通行止め

27日は、衆議院議員選挙の投票日と重なっており、市内9投票所が区域内に一時通行止めとなる箇所がある。対象となる投票所は

開西小、帯広小、花園小、中央福祉センター(西7南12)、啓西小、緑南福祉センター(南町18)、帯広の森コミュニティセンター(空港南町南11線)、ときわの森保育所(西16南5)、森の果小。
また、緑丘小、緑西コミセン(西17南4)、第五中、西10号会館(西21南2)、広陽小、西陵中、森の

交流館・十勝(西20南6)の七つの投票所では、一部区域が通行止めに隣接している。通行止めとなる時間は各所で異なる。詳細は大会ホームページのQRコードへ。



JAGAが特別放送

JAGA(FM77.8MHz)は27日午前8時~11時、大会特別番組を放送する。当日ランナーとして出場する漫画家横山裕一さんがゲスト出演するほか、会場からの様子やイベント情報などを伝える。

ボランティア79人壮行会

帯広コア専門学校 全校挙げて支援

帯広コア専門学校(千葉直樹理事長)は24日、「フードバレーとかちマラソン2024」に向け、壮行会を開いた。同校からは前日・当日ボランティアが79人、ランナー19人が出場する。

地元のマラソンイベントを盛り上げるため、2012年の第1回大会から学校を挙げて参加している。壮行会では、学生がオリシナルの青いTシャツを着て集まった。千葉理事長が「イベントを通じて貴重な経験、思い出さなければ、若いエネルギーで盛り上げて」との壮行文を読み上げ、学生が士気

を高めた。3年連続のボランティア参加となる櫻井湧大さん(20)は「高層情報システム科3年」は「十勝の外から来た人との交流も楽しみ」、初参加の横田和奏さん(19)は「医療ビジネス科1年」は「走り疲れている人と気持ち良くコミュニケーションが取れたら」と抱負を語っていた。

ランナーとして出場する佐々木朋暉さん(18)は「情報ビジネス科1年」は「何とか完走できるように気分で頑張りたい」と意気込みを語っていた。(大谷健人)



ゴシツ

○：帯広コ
の施設見学も行われ
ア専門学校
た。

（千葉直樹校
長）は14日、高
満寿屋商店の杉山雅則

校生を対象に
社長を講師に招き、ピ
ザ作りを体験。在校生

オープンキャンパスを
ザ作りを体験。在校生
開いた。生徒17人と保
も協力して来たるべき
護者9人が参加した。後輩たちをもてなした

○：参加者は歯科衛
生士科、情報システム
科など各学科の学び体
験などで学校の魅力に
触れ、進路への意欲を
高めた。幕別町の介護
老人保健施設あかしや
と話していた。
（瀬藤範子通信員）